

囲碁にまつわる言葉 【烏鷺】

平成 21 年の碁楽連だより 209 号に、同会員の三浦隆郎氏が「囲碁の別称」という随筆を投稿しています。「囲碁」の別称はいくつかあります。「烏鷺(うろ)」、「手談(しゅだん)」、「方円(ほうえん)」、「坐隠(ざいん)」といった言葉です。囲碁をして、故事来歴や伝説に由来するものから形をあらわすものを指します。

2012 年に白泉社から発行された囲碁漫画「星空のカラス」全 8 巻に囲碁が大好きな 13 歳の少女、烏丸和歌が登場します。プロ棋士だった祖父から碁を教わり、年齢も性別も関係なく人とつながれる碁の楽しさを知ります。そんなある日、若手天才棋士の鷺坂総司に出会います。鷺坂の全身を傾ける対局に感銘を受けた和歌は、自分もプロ棋士になることを決意します。2 人の主人公の名前は囲碁を意味する「烏鷺」から由来しています。

----- 【烏鷺】 -----

烏鷺(うろ)とは、囲碁の別称で、黒石と白石を烏と鷺に例えたものです。碁の対局は「烏鷺の争い」ともいわれます。「烏鷺」とは、「カラス」と「サギ」のことです。カラスは黒色を象徴し、サギは白色を象徴する鳥なので、「烏鷺」という言葉に用いられています。「烏鷺の争い」は「囲碁で勝負をすること」という意味の諺です。「烏鷺」は、単に「黒色と白色」を表す言葉としても用いられます。



「盤の前ではみんな 1 人、弱い自分がいるだけ」から始まった主人公の和歌。囲碁によって師匠や様々な立場の仲間と切磋琢磨します。幾度となく挫けそうになりながら遂にプロ、そして新女流名人に。常に強くなる目標を意識し続けた和歌の姿です。

(2021 年 10 月 27 日 大和田囲碁同好会 成田 滋)